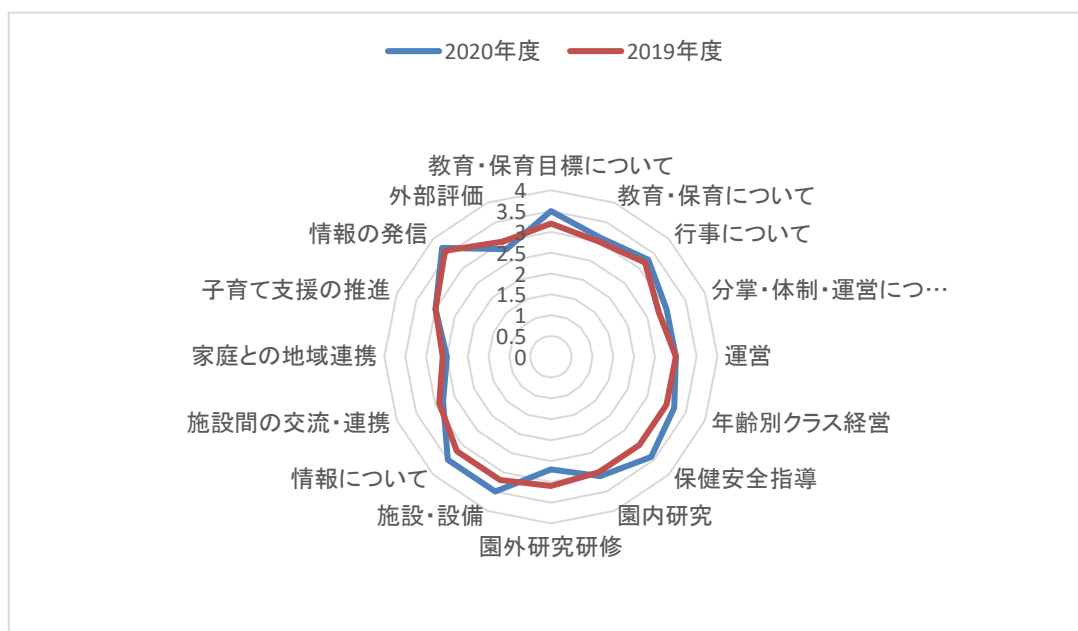


2020年度認定こども園 みどり幼稚園 自己点検・自己評価

	2020年度	2019年度
教育・保育目標について	3.5	3.2
教育・保育について	3.1	3
行事について	3.3	3.2
分掌・体制・運営について	3	2.8
運営	3	3
年齢別クラス経営	3.2	3
保健安全指導	3.4	3
園内研究	3.1	3
園外研究研修	2.7	3.1
施設・設備	3.5	3.2
情報について	3.5	3.2
施設間の交流・連携	2.8	2.9
家庭との地域連携	2.5	2.6
子育て支援の推進	3	3
情報の発信	3.7	3.6
外部評価	2.8	3



総合評価

2020年度は新型コロナウイルス感染症の発症により緊急事態宣言が発出され、休園することになり一学期は通常の保育活動が出来なかった。その後も分散登園や時差登園などの対応を行ってきた。行事も3密を防いだりソーシャルディスタンスを行いながら工夫して行った。その中でも子どもの主体性を大切に、与える保育ではなく、子ども達自ら思いや意見などが言えるように配慮し、関わってきた。教育部門では今までの教育目標、教育方針を踏まえて年間計画を見直し、園児達が様々な経験、体験を積み、集団生活の中で社会性を身に付けていくことが出来るように保育者同士が共通理解を持ち、環境設定に配慮して年齢に沿った保育活動を行った。預かり保育もコロナ禍での対応となったが、子育て支援の役目も果たしてきた。また未就園児クラス(トライスクール)の保育も順調に行うことが出来ず、二学期からの開始となった。保育部門では経験のある保育教諭が1、2歳児の保育計画を立て、基本的な生活習慣の樹立を目指し保育を行った。2号・3号認定の長時間保育利用園児の関わりは保育部門から教育部門へつながりを持ち、こども理解に大きく影響した。これからも教職員は園内研修(ふれあい全体研修)や園外研修に参加して自己研鑽し、改訂された新教育・保育要領に基づいて保育活動を工夫して行っていくことが望まれる。コロナ禍での保育活動ではあったが、工夫や見直しをすることで、別の保育のあり方の発見にも繋がり、よい効果も得られた。地域との連携や他施設との連携の取り組みに欠けるがコロナ禍での難しさも感じている。